〈アイデア紹介〉

探究の意欲と喜びを目ざして
―理科６年「地そう」を実践例として―

西白河郡矢吹町立矢吹小学校教諭
武　藤　　宏

1　はじめに

私たち人間にとって，自然は，かけがえのない宝庫である。人間は，自然から多くの恩恵を受け，同時に，自然から，多くのものを学んできた。しかし，現在では，自然を軽視し，偉大な自然の力に対する「おそれ」と「うやまい」を忘れ，自然のしっぺがえしを受けることが，多く，見られるようになってきた。輝かしい未来を開くには，今こそ，人間と自然とのかかわり方を真剣に，考えていかなければならない。

本校の実態として，自然環境には，恵まれており，子どもたちは，自然に親しむ機会は，多いと考えられるが，自然を相手にした遊びや自然から学びとり，それを，日常生活に生かしていこうとする態度には，欠けている面が多い。豊富な物資に，安易に埋没したり，生命の尊さを軽んじたり，自然の現象・事物に対する驚きの感情がうすかったり等，自然に，帰属する態度が不足している。

このことから，自然とのふれ合いを通して，自然の中に自分の身を委(ゆだ)ね，自然の中にひそむ，きまりや現象を見つけて利用したり，自然への適応のしかたを学びとっていく子どもを育てることが，急務ではないかと思うのである。

2　研究のねらい

(1)　自然に接する機会を，数多く持たせ，自然に対する興味や関心を高める。

(2)　直接，体験させる子どもの活動場面を重視し，事実に基づいて，自分で考え，判断して，自然に潜んでいるきまりを，発見させるようにする。

(3)　生物をかわいがり，生命をいつくしむ心情を育てることによって，自然に対する愛情を持つ，子どもにする。

3　研究実践のための手だて――直接，体験させる子どもの活動場面を重視した例――

直接，体験する学習の基本は，「観察する。」ことであり，それをもとに，実験を組み立てた学習指導の過程を重視していくことである。そのためには，「観察」や「実験」の役割を知って，その役割に応じた活動場面を設定し，子どもの自発的な活動に委ねることである。

(1)　観察や実験の役割について

①　事実をありのままにとらえること。

②　問題（課題）を把握すること。

③　問題（課題）を解決するための情報収集のためにすること。

④　問題（課題）を解決すること。

⑤　仮説を検証するために，おこなうこと。

(2)　教材提示の重視

活動場面設定の重要な柱として，教材の特質を生かした提示の工夫を，考えていく必要がある。

教材そのものには，ねらいがある。子どもたちは，教材を提示することによって，そのねらいに向かって，活動をはじめるはずである。しかし，教材には，そのものが持っているねらいの他に，副次的な要素を含んでいるので，条件によって規制し，副次的な要素の方向に，学習が，進行していかないように，配慮していかなければならない。そのためには，教師は，どんな教材を，どんな観察や実現の役割を持たせて，用意すべきかに留意し，提示したら，可能な限り，子どもの自発的な活動に，委ねていくようにする。

4　研究実践の例――理科６年「地そう」を例にして――

(1)　単元名　地そう

(2)　目標

地層の重なり方，及び，地層をつくる物の様子から，地層は，水のはたらきによってできることを理解させる。

①　けずられたいろいろな土地が見られること。

②　けずられた土地の中には，いくつかの層からできているものがあること。

③　地層によって，その重なり方がちがうものがあること。

④　地層のつくりと地下水とは，関係があること。

⑤　地層によって，含まれているものに，特徴があること。

⑥　地層の中には，化石が含まれている場合があること。